

# データ時代の標準化活用について

---

上席研究員 崎村夏彦

株式会社野村総合研究所

DX生産革新本部

IT基盤技術戦略室

2020年2月3日





## 産業革命の特徴

第八大陸の特徴は、処理できるデータ量によってどんどん拡大すること。  
囲い込みよりも共同での拡大を図った方が有利→行動原理の変化

産業革命	成長限界	主要生産設備	行動原理	知財F/W	主要標準化団体
第三次まで	対象市場人口 (e.g.植民地)	ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>• 囲い込み + 独自I/F</li><li>• 文書主義</li><li>• Waterfall</li></ul>	RAND	ISO, ITU-T, etc.
第四次	データ転送限界	ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>• 協調による技術開発による<u>コスト削減</u>と<u>早期投入</u></li><li>• 共通I/Fによる<u>市場拡大</u></li><li>• <u>実装主義</u></li><li>• Iterative</li><li>• 普及・啓発</li><li>• 実装者・企業の早期巻き込み</li></ul>	RF	IETF, W3C, IEEE, 3GPP, AOM, OI DF, FIDO Alliance, Wi-Fi Alliance, BTSig, etc.

## 標準化の目的は「市場拡大」「適時投入」「コスト分担」「共同プロモーション」

目的	解説	備考
市場拡大	共通I/Fにより、各社の対象ユーザを統合して、より大きな収穫逦増からの収益を目指す。	
適時投入	収穫逦増下では、自社が準備できる前に市場が開始してしまうと追いつくのは至難の技になる。逆に、自分の次を千切るには、自社は準備して次は準備できていないタイミングでリリースするのが良い。	技術的・論理的理由でないと遅らすことはできない。リーダーシップポジションを取っておくことが必要 → 必要に応じて外部人材も登用
コスト分担	一つの規格でも高品質で安全なものを作ろうとすると多大なコストがかかる。これを分担することにより、投資限界の律速を避ける。	各社で出した人材で作業分担を行う。
共同プロモーション	作った規格の普及の急速化を共同で行う。 ・共同セミナー、カンファレンス、ハッカソンなど	

## リーダーシップ・ポジションを取ることと長期戦略の重要性

- 前述の通り、リリース時期をコントロールするには、標準化に係る他のメンバーからリスペクトされていないと無理。
- 「仲間」になっていなければ、サイド・カンバセーションには入れない。重要な決定は実はサイド・カンバセーションですでに決まっている。
  - リモート参加ではコーヒー・ブレイクやバー・タイムに参加できないのでだめ。
- 開発が必要なものはたくさんある。どのようなプライオリティでやるべきかの考えは、各社で異なる。自社のプライオリティのゴリ押しはできないので、長期的視野にたったの課題提示と善導が必要。
- どの標準化団体がその分野で力を持っているかを見極め、その標準化団体メンバーに認められるような活動をする



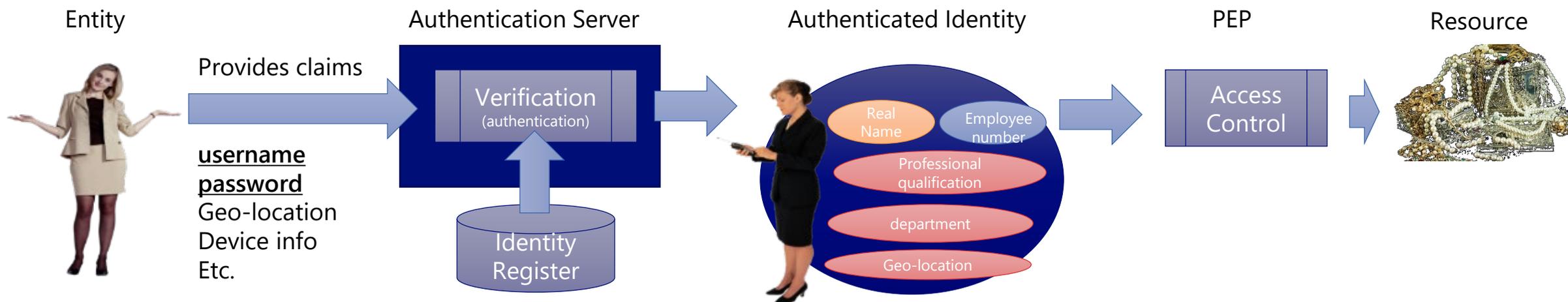
# 3つの「by Design」と2つの「Transparency」

## ■ 3つの「by Design」

- Digital Identity by Design
- Privacy by Design
- Security by Design

## ■ 2つの「Transparency」

- Ambient & Transparent
- Transparency in the data processing



The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

***Share the Next Values!***